

人権だより

2023. 2

大洲高校人権委員会



1月27日実施のホームルーム活動について、人権委員の感想の一部を紹介します。1年生は「部落差別の起こり」をテーマに、中世から近世の歴史に学びました。2年生は「戦後の解放運動」を中心に学び、4回ある歴史学習の総仕上げとしました。



1-1

ケガレ観や賤視観による社会的差別が中世から存在していたことに驚いた。その偏見を減らせるように、自ら積極的に行動し、人権問題を学んでいきたいと思った。



1-2

部落差別の起こりについて学んだ。幕府が差別されるような状況を作り出したが、差別されてきた人々の職業が、欠かせない職業であったことに驚いた。とても理不尽な差別だと思った。



1-3

賤称語は人を人と思わないひどい言葉だ。口から発せられた言葉は決して消すことはできない。相手を傷つけてしまうことを忘れず、誰もが気持ちよく生活できるように心がけたい。



1-4

中世の社会的差別、江戸時代の身分制度を学んだ。差別を受けながらも社会の発展に大きく貢献した。差別の歴史を学ぶのではなく、歴史に学ぶということを含頭に生活したい。



1-5

賤称語は現在でも差別用語として使用される悪質な事例がある。今日の活動を通して、賤称語は日常生活で使う言葉ではないことが分かり、無くしていくことが大切だと思った。



2-1

私たちは正しく学び、誰かに啓発することが必要になる。「部落差別解消法」があるということは、今も部落差別があるということだ。この法律がなくても誰も辛い思いをしない世の中にしたいと思った。



2-2

文字を学び人間らしく生きる権利や感性を取り戻せたことは、水平社などの解放運動の成果だと思う。私も人権についての考えを深め、今ある差別に対して行動を起こせる人になりたいと思った。



2-3

部落差別により学校へ行けず、文字を学習する機会を失った方に学んだが、勉強できる環境や手段があることは、当たり前ではなかったと感じた。将来を考える時期に、今回学ぶことができたことに感謝したい。



2-4

部落差別により苦しい生活を送っていった人がいたという事実を、この機会を通して知ることができた。このような差別を繰り返さないためにも私たちがどう取り組んでいくべきか考えることが必要だと思った。



2-5

差別を受けたり偏見を持たれたりして生きてきた人たちの字には、何か私たちに問いかけているようなものがあると感じた。今を生きる私たち一人一人が、差別をしない、許さないという姿勢を示していくことが必要だ。

第30回 人権集会

2月3日に開催した人権集会を、感想の紹介をして振り返ります。
今年の集会では演劇部も活躍しました。



- ▲ 今苦しみ、闘っている人がいるのなら、私は「反対を表明」し、より学んでいこうと思う。
- 差別を無くしていくために大切なことは、被害者を減らしていくという考えではなく、加害者を無くしていくという考えの方が差別は無くなっていくと思った。
- ◇ 部落差別によって「木偶回し」が生きる場所を追われてしまい、泣く泣く人形を川へと捨てていく…これはとても悲しい事実だ。その消えかけた灯を、その先の人生をかけて蘇らせた方をとても尊敬する。
- 狭山事件がとても心に残った。…59年間にわたり無罪を主張し、部落差別解消に向けて活動を続けていることに感銘を受けた。
- △ 差別が影響を与えるのは人の心だけでなく、文化や生活にも影響を与えることが分かった。
- ◎ 誰がどんな風に生きるかはその人次第で、それを認めることが大切だと思った。
- ◆ 「アンコンシャス・バイアス」のように、自分では気付かないうちにそれまでの経験から生み出された「当たり前」を相手に当てはめ、相手を傷つけてしまうこともあるのだと学ぶことができた。
- 差別を無くすには思い込みや偏見をなくして、変わるのを待つのではなくて、みんなで良く変えていくことが大切なんだと思った。
- 「寝た子を起こすな」という言葉がありますが、差別されている人は「正しく起こして」と言っています。今私はその気持ちが、集会の発表を聞いて、だんだん強くわかってきました。
- ◇ 何か大きなことをするのは難しいけど、反対を表明することはすぐ実行できるし、周りに影響を与えやすいので、意識して表明しようと思った。
- 劇中のような状況が多く残っている世の中が、人の挑戦の妨げになっていると再認識できた。
- 自分らしさを奪うものが差別であるように感じた。
- △ 「差別は見ようとしなければ見えない。」一番印象に残っている言葉だ。

コラム

「あなたとわたし」

♪ 大きな栗の木の下で

作詞：不詳 作曲：イギリス民謡

大きな栗の木の下で あなたとわたし
楽しく遊びましょう 大きな栗の木の下で

この歌知ってるよ。



どうして「あなた」が先で次に「わたし」なのかなあ。



「わたしとあなた」でも同じじゃねえ。



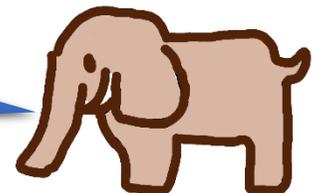
でも、あなたがいるから楽しいんじゃない。



だから「あなたとわたし」。



ひとりで楽しくないの。



英単語の「理解する」は understand。
相手の下に立つことで、相手を「理解する」ことができるのかもしれないね。

